令和元年度お茶の水女子大学経営協議会〔第２回〕議事録

日　　時：令和元年１０月１５日（火）１５：００～１６：５０
場　　所：お茶の水女子大学　大学本館２階　第一会議室（２１３室）
出 席 者：（学外委員）相澤委員、大橋委員、小野委員、北原委員、坂本委員、篠塚委員、
野間口委員、DAVIS 委員
（学内委員）室伏学長、森田理事、三浦理事、佐々木理事、加藤副学長、新井副学長、
藤原副学長、井戸副学長・事務局長
（陪　　席）谷本副理事
水野文教育学部長、小林理学部長、仲西生活科学部長、
菅原大学院人間文化創成科学研究科長、坂元総合評価室長
伊藤貴之基幹研究院自然科学系教授（意見交換説明者）

１．議事録（案）の確認
記録内容及び大学ホームページへの掲載について、了承した。

２．学長報告
令和元年度卓越大学院プログラムの選定結果について、資料に基づき報告があり、今回はヒアリングまで進んだが採択には至らなかったこと、及び次年度に向けてさらにブラッシュアップしたものを申請する意向が示された。

３．審議事項
（１）令和元年度学内補正予算（案）について
森田理事より、令和元年度学内補正予算（案）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。また、令和元年度人事院勧告への本学の対応について、国会での法案成立後となる学内の規程改正は、学長に一任することが承認された。

（２）東村山郊外園（西側）譲渡について
森田理事より、東村山郊外園（西側）譲渡について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

（３）板橋団地定期借地について
森田理事より、板橋団地定期借地について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

４．報告事項
（１）令和２年度概算要求の経過について
森田理事より令和２年度概算要求の経過について、及び井戸副学長・事務局長より施設整備費補助金の要求事業について、資料に基づき報告があった。

相澤委員より、今年度申請した卓越大学院プログラム「AI 社会におけるダイバーシティを牽引する女性リーダー育成プログラム」と、概算要求の戦略１「理工系女性リーダーの育成」として新規に組織整備する「文理融合 AI・データサイエンスセンター」は、似た名称となっているが、内容の切り分けがなされているのか確認があり、森田理事より、卓越大学院プログラムは大学院での育成、また、文理融合 AI・データサイエンスセンターは学部での教育に主眼を置いていることの説明があった。

また、相澤委員より、運営費交付金の重点支援に関する評価について、どのような対応を取っているのか確認があった。

森田理事より、今回設定した全ての評価指標（KPI）において数値目標を達成していること、及び C 評価を受けた戦略については、文部科学省に考え方を説明し、理解の向上に努めたことが述べられた。また、文部科学省の「新しい評価・資源配分の仕組み」において示された共通指標についても、対応策を検討していることの報告があった。

小野委員より、文理融合 AI・データサイエンスセンターでは女性リーダーを育成することを目指しているが、女性の特色をどのように活かしていくのか確認があった。

森田理事より、当該センターでは、文系・理系問わずプログラミング等の教育を行い、女性感覚の AI 及びデータサイエンスを身につけた学生を社会に送り出すことで、男性思考に基づく AI を変革することを目指しているとの説明があった。

また、室伏学長より、世間に氾濫するデータのほとんどが男性の目線で収集、分析され、女性にとって好ましい成果が得られているとは言えないことから、女性の視点や男女の違いに基づいたデータ収集を行い、女性が使い易い製品や男女で効果の異なる医薬品の開発に活かす等の動きが若い研究者の間で始まっており、今後の研究の進展が期待されるとの説明があった。

（２）平成 30 事業年度財務諸表の承認及び決算剰余金の繰越承認について

森田理事より、平成 30 事業年度財務諸表の承認及び決算剰余金の繰越承認について、資料に基づき報告があった。

（３）外部資金獲得状況について

森田理事より、外部資金獲得状況について、資料に基づき報告があった。

（４）「女性が輝く TOKYO 懇話会」について

佐々木理事より、11 月 27 日に開催予定の「女性が輝く TOKYO 懇話会」について、資料に基づき説明があり、併せて参加への案内があった。

（５）その他

加藤副学長より、2019 年 7 月～9 月における本学の主な活動について、資料に基づき報告があった。

５．意見交換

（１）文理融合 AI・データサイエンスセンターについて

文理融合 AI・データサイエンスセンターについて、学長、森田理事及びセンター運営の中心を担う伊藤教授より、資料に基づき説明があり、委員に助言を求めた。

■学外委員からの主な意見は以下のとおり。

野間口委員：・AI、データサイエンスは昨今、多くの大学、機関等で扱われている課題である。その中で、是非、お茶の水女子大学の特徴が出るような取組を行っていただきたい。女性目線でのオープンデータの活用には、お茶の水女子大学らしさが出せるのではないか。また、教育は AI により今後大きな変革が予想される。お茶の水女子大学は幼稚園から附属学校を有しており、附属学校における学校教育での学びの視点からも、AI 分野の教育、研究において特色を出していただきたい。

・異分野の融合においては、ただ異分野の専門家を集めることではなく、融合のもたらすアウトカムが重要である。お茶の水女子大学らしいアウトカムを創出していただきたい。

北原委員：・学部１年次からデータサイエンスの授業を行っているとのことだが、統計的な手法の基礎となる考え方を習得することは、文系・理系問わず全ての学生にとって必要である。大学の基礎的な教育として、是非、進めていただきたい。

・幼・小・中からできる AI・データサイエンス教育としてお茶大モデルを作ったらいかがか。

小野委員：工学部の新設構想は、素晴らしいことである。時代の要請に合わせ、旧来の学部に捉われない抜本的な学部再編を行う必要がある。工学部の設置はお茶の水女子大学の歴史を変える試みだろう。理系の女性リーダー育成のためにも、充実した学部にしていただきたい。

相澤委員：・文理融合 AI・データサイエンスセンターとともに工学部を構想するならば、プログラム存続期間で事業が終わらないよう、大学として全体構想を考えて、整合させる必要がある。

・かつて国の方針で情報科学分野の学部・大学院が全国の大学に整備されたが、情報科学の背景にある数学及びエレクトロニクス分野の融合が進まず、現在、日本は AI 等の分野で世界の変革に遅れをとっている。その反省を踏まえて AI・データサイエンス分野の組織作りに取り組んでいただきたい。

・マサチューセッツ工科大学では、かつて生物学を文理に捉われず基礎教育として位置付けたが、AI・データサイエンスにおいても、時代変化を見据える視点が必要である。また近年、崩れてきているリベラルアーツの体系の中で、AI・データサイエンスをどのように据えるのかという視点での検討も重要である。

・数学の研究者に対し、現在、純粋な数学の探求に加え、社会的課題に貢献することを求める動きがある。データサイエンスに取り組むにあたって、数学系の教員を取り込んで展開していくことが重要である。例えば、カナダのウォータールー大学では、数学分野と情報学分野が融合し、数学が情報学分野の駆動力となっている。データサイエンスを学問分野としてどう変革していくかという本質的な議論も必要である。

篠塚委員：・お茶の水女子大学がデータサイエンスに取り組むにあたっては、女性リーダーの育成をコアとし、ジェンダーの視点を重視すべきである。現在、データサイエンティストに関連す

る資格を取得する者が増える動きがある中で、お茶の水女子大学では、単に専門家を養成するだけではなく、グローバルな視点でリーダーシップを発揮しつつ、社会を良くするために情報を駆使し、世の中に発信していける人材を育成していただきたい。また、構想中の新学部の名称については、学部の理念を踏まえ十分に検討していただきたい。

坂本委員：お茶の水女子大学では幼稚園から高等学校まで附属学校を有しているが、幼少期からのお茶の水女子大学での教育は一生涯に亘って影響するものである。情報教育においても、幼稚園から大学までが一体となって、取り組んでいただきたい。

■本学からの主な回答・発言は以下のとおり。

室伏学長：・構想する工学部は、情報分野を核としていく。新たに設置した文理融 AI・データサイエンスセンターの活動を工学部構想へ繋げていきたい。

・本学のヒューマンライフイノベーション開発研究機構は、文理融合により新たな学問分野を生み出すことを目的として設置したが、上手く機能してきており、新学部とも連携を持たせていきたい。

・博士課程教育リーディングプログラムでは、Project Based Team Study として、異なる分野の学生がプロジェクトチームを編成し、産学官の連携により、領域を超えた課題を解決していく自主協働研究を行っている。この取り組みを他の分野にも広げていきたい。

三浦理事：本学の卒業生のうち相当数が、情報関連企業へ就職している。文系の学生がシステムエンジニアになる場合もあり、人文系の知識をベースに技術を社会に適用するという側面で活躍している。社会的課題を解決するイノベーションには、工学、理学の知識のみならず、人文社会的な知識も必要となる。構想する工学部を、文系理系の壁を越えて、既存の三学部の中心に位置付けていきたい。

伊藤教授：従前はデータサイエンスに関する授業が散在し、学生がどの科目を履修すればよいか分かりづらい面があった。学生がデータサイエンスを体系的に学べるようにするため、学部１、２年生を対象とした従前の科目に加え、学部３年生以上を対象とした科目も設置し、全学年を通じた一つのプログラムとして明示することを検討している。

６．その他

○　鈴木財務課長より、事業・財務レポート　2018（平成 30）事業年度について、資料に基づき説明があった。

○　室伏学長より、今後の令和元年度経営協議会開催予定について、資料に基づき説明があり、次回開催は令和２年１月 21 日（火）15 時であることを確認した。

以　　上